

第10回 設問

今回の設問群は、成績評価に算入するレポートです。事情により欠席する人に配慮して、締切りを授業日から約一ヵ月後とします。正確な情報は、UNIPAで確認すること。正解のフィードバックは、締切後になります。※複数回送信した場合には、最後のものが採用されます。

レポートの提出は、本設問集の最初のページに掲載されているQRコードを読み込み、アクセスしたサイトの「Education」ページの末尾「リアルタイム授業アンケート・ミニテストはこちら」をクリックして、解答用のFormsを使って行ってください。

為替レートを左右する要因について説明した以下の文が、あくまで理論的な説明として、正しいければ1を、間違っていれば2を解答しなさい。

問01. 為替レートは、長期では購売力平価に一致するという説を購売力平価説という。

⇒解答 [2]

問02. お金の流れ（フロー）に注目して、たとえば金利が高い国の通貨は値上がりする傾向にあることを主張する立場は、フロー・アプローチと呼ばれている。 ⇒解答 [1]

問03. お金の量が増えると、その国の通貨が値上がりする傾向にあることを主張する立場は、マネタリー・アプローチと呼ばれている。 ⇒解答 [2]

問04. 金融資産の国際的な売買によって為替レートが左右されることを主張する立場は、アセット・アプローチと呼ばれている。 ⇒解答 [1]

次の文は、金利の差によって、為替レートが影響される様子を説明したものである。それぞれの [] に入る適切な語句や数値や式の候補が二つずつ、 [] 内に書かれている。どちらの語句・数値が正しいかを選択肢の番号（1または2）で解答しなさい。

当初、アメリカの金利が年3%で、日本の金利が年3%と仮定する。為替レートが、 $\$1 = ¥150$ だとする。150円持っている日本の投資家が、日本で一年間、金利3%で運用すると、⑤〔1. 150×0.03 、 2. $150 \times (1+0.03)$ 〕円となる。

この150円を上記の為替レートでドルに換えると、1ドルになるので、アメリカで一年間運用

すると、⑥〔1. 1.03、 2. 1×0.03 〕ドルとなる。その後、為替レートが変化していないと仮定すれば、円に換えると、ちょうど $1.03 \text{ ドル} \times 150 \text{ 円}$ となり、日本で資金運用した場合と同じリターンになる。だから、この状態では、日米どちらで資金運用しても同じなので、為替取引は発生しにくい。

ところが、ここからアメリカの金利が5%に上昇したら、150円をドル買い・円売りして1ドルに替えて運用すると、一年後には⑦〔1. 1.03ドル、 2. 1.05〕ドルとなり、それを円に換えると、 $1 \times 1.05 \times 150 \text{ 円}$ となる。金利3%の日本で運用したら、 $1 \times 1.03 \times 150 \text{ 円}$ なので、明らかにアメリカで資金運用したほうが有利だ。

つまり、アメリカの金利が上昇したら、上記のようにドル買い・円売りが優勢になり、⑧〔1. ドル高・円安、 2. ドル安・円高〕になる。このように、金利が相対的に高い国の通貨は、値上がりする傾向があるといえる。

問 05. ⑤ への解答 [2]

問 06. ⑥ への解答 [1]

問 07. ⑦ への解答 [2]

問 08. ⑧ への解答 [1]

問 10. 労賃がアメリカで時給 10 ドル、日本で時給 1000 円と仮定する。為替レートが、 $\$1=\text{¥}100$ ならば、アメリカの労賃を円に換算すると 1000 円、日本の労賃をドルに換算すると 10 ドルなので、どちらも同じ金額である。ここから、為替レートが $\$1=\text{¥}200$ に変化すれば、アメリカの労賃は日本円では 2000 円、日本の労賃はドルでは 5 ドルになる。つまり、日本でもアメリカでも、日本の労賃がアメリカの労賃の半分ということになる。そうすると、アメリカの企業としては日本に直接投資を行うインセンティブ（動機づけ）が強まる。 ⇒解答〔 1 〕

問 11. 為替レートが、 $\$1=\text{¥}100$ から $\$1=\text{¥}200$ に変化したと仮定する。3000 ドルで日本に旅行にくる外国人にとっては、60 万円から 30 万円に減るわけだから、円安はインバウンド・ツーリズム（外国人が日本に旅行にくること）を減らす要因といえる。 ⇒解答〔 2 〕

問 12. 円安は、日本人の海外旅行を減らし、外国人の日本への旅行を増やす要因である。
⇒解答〔 1 〕

問 13. GDP の規模を外国と比較するとき、円安は日本の GDP を相対的に大きくする。
⇒解答〔 2 〕

問 14. 為替レートが、 $\$1=\text{¥}100$ から $\$1=\text{¥}200$ に変化したと仮定する。ドル建ての資産を 1 万ドル持っている企業としては、100 万円から 200 万円になるのだから、為替差損が生じる。
⇒解答〔 2 〕

問 15. 為替レートが、 $\$1=\text{¥}100$ から $\$1=\text{¥}200$ に変化したと仮定する。ドル建ての負債を 1 万ドル持っている企業としては、100 万円から 200 万円になるのだから、為替差益が生じる。
⇒解答〔 2 〕

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第12回 設問

日本の輸出入について説明した以下の文が、あくまで理論的な説明として、正しければ1を、間違っていれば2を解答しなさい。※為替レートの変化は、輸出入の価格にすべて反映されると仮定する。

問01. 日本の輸出先の国の景気が良くて経済成長が続いているならば、その国への輸出は増える。 ⇒解答〔 1 〕

問02. 日本の景気が良くて経済成長が続いているならば、日本の輸入は減る。

⇒解答〔 2 〕

問03. 円高は、日本の輸出数量を減らす要因となりうる。 ⇒解答〔 1 〕

問04. 貿易収支は、輸出総額マイナス輸入総額である。 ⇒解答〔 1 〕

問05. 輸出総額は、各財の輸出価格×その財の輸出数量をすべて合計したものであり、輸入総額は、各財の輸入価格×その財の輸入数量をすべて合計したものである。

⇒解答〔 1 〕

問06. たとえば、 $\$1 = ¥100$ が $\$1 = ¥200$ という具合に円安になれば、1ドルの財が100円で輸入されていたものが、半額の50円で輸入できることとなる。 ⇒解答〔 2 〕

問07. 円安になって、各財の輸入数量が減ったとしても、各財の輸入価格がそれを相殺するほど上昇していれば、輸入総額はかえって増えることもありえる。 ⇒解答〔 1 〕

次の文は、ISバランス論を説明したものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句を下の選択肢から選び、番号でそれぞれ解答しなさい。なお、選択肢には不要な語句も含まれている。※半角数値のみで解答すること。

ISバランス論とは、一国の貯蓄と投資の差によって、経常（貿易）収支を説明しようとするものである。GDP (Y) すなわち〔 ⑧ 〕は、

$$\text{消費 (C) + 投資 (I) + 政府支出 (G) + [⑨] (X) - 輸入 (M)}$$

$$\text{つまり、} Y = C + I + G + X - M \text{ ---- (1) 式}$$

この式は、その国で一定期間内に新たに生産された付加価値の合計を表している。同時に、この式は、生産された財が売れたという支出金額で集計されたものであり、売れたということは誰かの収入になっているわけである。収入は、消費 (C) に使うか、貯蓄 (S) するか、〔 ⑩ 〕 (t) するかを使い道を分けることができる。このことを式で表せば、

$$Y = C + S + t \text{ ---- (2) 式}$$

ということになる。(1) 式と (2) 式の左辺 Y の金額は同じなのだから、右辺同士をイコールで結ぶと、

$$C + S + t = C + I + G + X - M \text{ この式を変形すると、}$$

$$S - I - (G - t) = X - M \text{ ---- (3) 式}$$

を得る。(3) 式は、一国の貯蓄マイナス投資マイナス〔 ⑪ 〕が、経常（貿易）収支と等しくなることを示している。

選択肢

- 1 納税、 2 政府純支出、 3 付加価値、 4 国民総生産、 5 国内総生産、 6 貿易収支、
7 輸出

問 08. ⑧ への解答 [5]

問 09. ⑨ への解答 [7]

問 10. ⑩ への解答 [1]

問 11. ⑪ への解答 [2]

この例では、金利が相対的に高い国で資金を運用するほうが利益が大きいので、日本の投資家はドル買い・円売りして、アメリカで資金運用しようとする。つまり、日本からアメリカへの資金流入が起きる。このように、金利が高い国には、外国から資金が流入する可能性がある。

問 01. ① への解答 [103]

問 02. ② への解答 [1.03]

問 03. ③ への解答 [103]

問 04. ④ への解答 [1.05]

$\$1 = ¥150$ が、 $\$1 = ¥200$ へと急激に変化すると予想されているとする。以下の文は、それに対して、起きる為替投機を説明したものである。それぞれが正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

問 05. このレート変化は、円高になると予想されている。 ⇒解答 [2]

問 06. 現在がドル安、将来がドル高になると予想されている。 ⇒解答 [1]

問 07. 儲けの基本は、安く買って高く売ることである。よって、現時点でドル買い・円売りをしておき、レートが変化したら、ドル売り・円買いをすればよい。 ⇒解答 [1]

問 08. たとえば、150 万円を現在ドル買い・円売りして、レートが変化した後でドル売り・円買いすると、200 万円になる。50 万円の儲けが出るわけだから、儲けの率は、およそ 3.33 % である。 ⇒解答 [2]

問 09. 円に対する攻撃としての為替投機を防止しようとするならば、日本銀行が金利を引き下げるのが有効である。 ⇒解答 [2]

も 1.1 倍の値段である。

この「10 %のインフレによって、日本の財の値段がアメリカの 1.1 倍になった」ことを為替レート変化に翻訳するということは、「物価は〔 ④12 〕のまま、円レートが 10 %高くなった」ことと同じだ。たとえば、財 A の価格がアメリカで 1 ドルのままで、日本で 100 円のままであるものの、為替レートが $\$1 = \text{¥}100 / 1.1$ と 10 %の〔 ⑤1 〕になれば、日本の財 A をアメリカに輸出すると、 $100 \text{ 円} \div \text{為替レート}$ すなわち $100 \div (100 / 1.1) = 1.1 \text{ ドル}$ となり、上の説明と同じ結果になる。

結局、〔 ⑥7 〕為替レートを計算するときは、日本の物価が α 倍になったのであれば、為替レートを α で割ればよい。同様に、アメリカの 1 ドルの財 A が 10 %値上がりして、1.1 ドルになれば、 $\$1 = \text{¥}100$ のレートで日本に輸入すれば 110 円となり、日本の財 A の価格 100 円に対して、1.1 倍。このことと、財 A の価格は不変のままで、10 %の円安が起きて $\$1 = \text{¥}110$ になることは同じ。なぜなら、アメリカの 1 ドルの財 A を日本に輸入すると、今度は 110 円となり、日本の財 A の 1.1 倍の値段である。つまり、アメリカの物価が β 倍になったのであれば、為替レートに β を〔 ⑦4 〕よい。よって、実質為替レートの公式として、以下を得る。

$$\text{実質為替レート} = \text{名目為替レート} \times \frac{\text{アメリカの物価変化}}{\text{日本の物価変化}}$$

選択肢

1 円高、 2 円安、 3 大きく、 4 掛ければ、 5 可変、 6 国際競争力、 7 実質、 8 実効、
9 高値、 10 足せば、 11 小さく、 12 不変、 13 安値